

足原のぞみ苑 デイサービスセンター
令和6年度 事業報告

1 概況報告

利用者の状況等

- | | |
|----------|--------|
| ① 平均年齢 | 87.6 歳 |
| ② 平均要介護度 | 2.36 |

職員の状況等

- | | |
|---------------|-----|
| ① 生活相談員 | 2 名 |
| ② 介護職員 | 5 名 |
| ③ 介護職員（非常勤職員） | 3 名 |
| ④ 看護職員 | 2 名 |

今年度の稼働率は 72.9%となっており、前年度は 69.9%だったので、稼働率は上回っている。しかし、事業目標の稼働率 75%という目標には達成することが出来なかった。

2 事業報告

（経営の重点取り組みテーマ）

① 利用者満足度の向上

（取り組み）

- ・行き先を選択できるバスハイクを企画、実施した。
- ・医療依存度の高い利用者を積極的に受け入れた。
- ・トイレを改修しプライバシーの確保ができるものにした。

【評価】

- ・バスハイクでは目的地を 5 か所設定し、ご自身で選択できる工夫を行った。
また、ご家族も一緒に参加することができ楽しんでもらえた。
- ・今年度より、医療行為が必要な方が入所している住宅型有料老人ホームから 3 名受け入れている。対応に苦労する場面があるが、医療職を中心に他職種との情報共有を図り、様々な対応策を図っていった。
- ・トイレのドアを吊り下げ式カーテンからアコーディオンカーテンに変更した。
利用者からは以前より見た目も良くなり安心してトイレを使用できると好評な様子である。

② スタッフの労働満足度の向上

(取り組み)

- ・早出の業務を見直し、通常勤務時間内に集約した。
- ・定期的に主任へ助言を行い、全職員には日々の処遇に対して意識改革を行っていった。

【評価】

- ・業務内容の振り分けや見直しをし、早出勤務をなくして全員を通常の出勤時間に変更した。子育て中の職員が多い為、無理のない勤務時間にする事で働きやすい職場環境の構築に取り組んだ。
- ・主任育成に関しては、曖昧な点を再確認していった。また、全職員に関しては苑内研修を通して資質の向上を図ることでやりがいに繋げていった。

③ サービス提供の効率化

(取り組み)

- ・効率的な送迎業務を行う為、AIを活用し送迎計画を立てている。

【評価】

- ・AIの導入を試みたばかりだが、送迎エリアや送迎時間の調整を細かく行うことで効率的な送迎が出来るようになった。
また、送迎計画の作成時間を短縮できたことで、利用者に接する時間が増やせ、サービスの質の向上に繋がられている。

④ 地域連携の強化

(取り組み)

- ・一定の地域以外の町内や自治会の行事に積極的に参加した。
- ・保育園・学童の子供たちとの交流を行う。

【評価】

- ・現在、足原元気クラブに参加しデイサービスの強みでもあるレクリエーションの提供と健康講話を行っている。今後もデイサービスでの活動をアピールしていく。
また、一定の地域だけでなく色々な地域活動に参加することが出来ており、活動を通して福祉ニーズの掘り起こしを行っている。
- ・利用者と子供たちが一緒に活動できる内容を提供している。交流については保育園や学童の年間スケジュールにも組み込まれており、定着している。

⑤ ケアマネージャーとの連携強化

(取り組み)

- ・外部のケアマネージャーと交流を密にすることで、何でも相談できる関係性

を構築している。

【評価】

- ・外部への関係性の充実により、新規利用者を月に 3 名獲得することができている。現在、自事業所 55%・他事業所 45%の為、他事業所率 50%を目指す。

⑥資格取得の強化

(取り組み)

- ・法人の補助制度により、介護福祉士等の資格取得を推進した。

【評価】

- ・今年度は介護福祉士の資格を 2 名取得した。また、介護支援専門員の資格についても 2 名取得できている。
スタッフが資格を習得する事で意欲を向上させ、サービスの質の向上やさらなる加算の取得に繋げていくことができている。

【まとめ】

- ・3月初旬にコロナウイルス感染症によるクラスターが発生した。それによる影響で、年間の平均稼働率が大幅に減少した。
現在、月平均 24.3 人だが月に 3 名は新規獲得できており徐々に回復している。
まずは、もとの平均 29 人に戻すことに取り組んでいく。
- ・今後の経営課題については、取り組むテーマの要素（業務、ケア、営業）をより具体的な実践内容としていく。